

# 「素心」と「3つの‘不’」

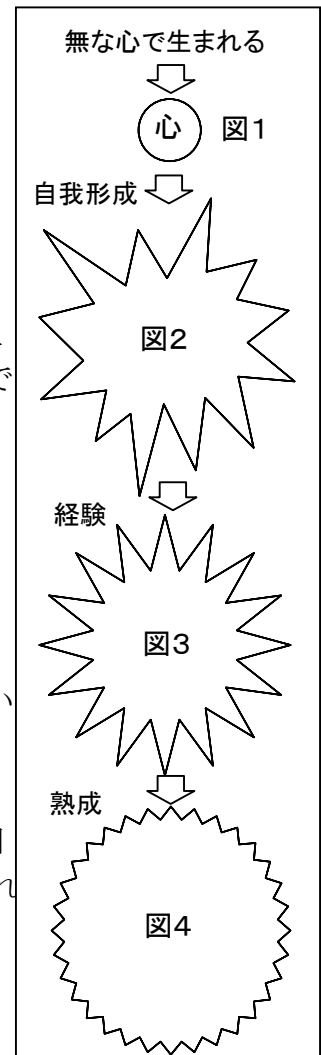
## 1. 「心」の変遷

右掲は、私が考える「心」の発展の過程です。誰でも、生まれた時には、心というものは形成されておらず、「無」な状態でスタートするのです。そして、成長するにつれて「経験」というものが蓄積されます。最初は、両親の愛情に包まれているので、本能に近い状態ですが、僅かに「心」が芽生えて、いわゆる丸い素直な状態からスタートするのです(図1)。誰しも、赤ちゃんの時から個性豊かという訳ではないのです。

ところが、成長の過程で周囲の影響を受けて、いろんな方向に関心が生まれて自我が形成され始めます。いわゆる「個性」というものが出てくるのです。小さな丸い心の状態から自我が形成されて「イガイガ」な状態になり関心のあるものには大きな「イガ」が出来て、それ程でもないものは小さいという図2の状態になります。

そして、図3で示すように「経験」を積んで成長して行くのですが、多くの経験を積んで「イガイガ」が多くなって、しかも、均等化されて行き、さらに、年齢を積んで行くと図4に「経験」が豊富になって、しかも、「イガ」が小さくなって、徐々に、「丸い」状態に近づき、まさに、「円熟」という状態に近づいて行くと考えています。この状態を図4で表しています。

「円熟」という状態は、個人差があると思います。比較的早い段階で円熟したかのように「丸み」をもった方もおられれば、結構、年配になられても個性が強い方もおられるという具合に千差万別なのです。しかし、晩年になればなるほどに、「イガ」の山は小さくなり、誰でも「丸く」なった状態に近づくのです。そして、関心も「動かない」「温度のない」ものになって行き、盆栽や骨董品などへ興味に移るようになって考えています。



## 2. 個性の形成

しかし、一般的な展開と「個人」という関係で見れば、同じ親から生まれた兄弟でも、仮に、双子という状態で育っても個人差が生まれるものなのです。DNA的には、ほぼ同じの双子の兄弟でも個性が少しずつ違って来るのです。「素心」という言葉がありますが、意味的には「前々からもっている考え、素志」と辞書にあります、その「前々」を究極に遡ると、どんどん小さな円の状態の心になるのです。

私は、お蔭様で、孫を持つようになり、誕生した時に周囲に見せるナントも表現しようのない可愛い笑顔を見て、究極の「素心」は、この状態と考えています。ところが、環境に影響されて「関心」というものが出て「イガ」が形成されるのです。もちろん、DNAという持って生まれたモノにも影響されるでしょうが、そういう先天的な要素もありますが、双生児にも個性差が生まれるように、ほぼ同じような「環境」で育っても個体に与えるインパクト差があるので変わってくると考えています。

例えば、幼い頃の環境が重要だと思えます。私たち団塊の世代は、戦後の復興と同時に育っていますので、「飢餓」という状態からスタートして、高度成長という物が豊富になり、かつ、サービスなどのモノが生まれて、情報量もどんどん増加するという状況に育ったので、比較的、物事への反応は前向きな方々が多い世代です。しかし、バブル期に成長した方々は、何もかも充実した状態で育ったので「欲求」というものが強くなく、教育的にも「ゆとり」が叫ばれたので競争心も乏しいの

で「個性」が十分に形成されていないケースが多いように思います。すなわち、「素心」という「個性」の形成が不十分な状態(没個性的)な方が多いように思うのです。

### 3. 「ギャップ」が成長の素

「感動」という言葉があります。その中で「大感動」という言葉があるとすると、それは「無」から生まれた衝撃的な事柄が最大のものと言えます。例えば、戦後の「3種の神器」は、当時の憧れであり成長の素になったものです。家電にしても自動車にしても、どんどん性能が良くなり「代替需要」への欲求が高いものでした。しかし、性能向上も劇的な物がなくなると、いわゆる「ギャップ」がなくなり欲求が弱まってくるのです。

右掲は、成長の「3つの‘不’」と呼んでいるものです。この状況を生み出す3つの切り口なのです。「不足」という欲求は大きなエネルギーになります。例えば、携帯電話も、皆が持つようになれば、通信手段としての普及が限界に到達して、スマートフォンのように多機能化するのです。しかし、このスマホへの関心は、若い世代には強い欲求があっても、私たちの団塊世代では「携帯電話」で十分という方々が多いのも事実です。

#### 3つの「不」

- ・不足
- ・不満
- ・不親切

そういう意味では、若い世代の方々が物に恵まれた状態で育ったという環境、さらに、教育的にも「ゆとり」という状況では、「不足」への欲求は小さいのも頷けるように思います。しかし、反面、「不満」が充満しているのも事実なのです。ニートという言葉があるように、「何」かをつかめずにさ迷う若者が多いのです。折角、就職しても「しがみついても」という必死さが無いのです。これと同じような現象が「離婚」なのです。女性が離婚しても困らない時代になったのです。

### 4. 「3つの‘不’」こそ「素心」を形成

時代は、バブルの崩壊から20年以上も経過し、日本経済もNo.2の座から転がり落ちて、厳しいデフレ時代に突入しています。グローバル時代なので「職場」というのも「物づくり」というレベルでは、どんどん縮小しています。資源に恵まれない国が付加価値を生み出す方式(パラダイム)の大変換が求められています。例えば、アイデアや設計は日本で行い、生産は海外という方式が多くなっており、これも、やがて海外との差がなくなっていくので、アイデアも設計も海外という風になり、企業は多国籍化を進めていきます。

こういう中で、新たな「3つの‘不’」を見つけ出す必要があるのです。「不足」⇒「イノベーション」は、日本人は従来から苦手として来ましたが、これへの新しい展開が急務になります。私個人としては、欧米人のように、海外に進出して生活することが一つのキーだと考えています。次に、「不満」ですが、これは「サービス」という点ですから、いろんな場面にチャンスがあります。ネット販売というのも「ジャパネットタカタ」のような企業が出て来て一つの方向性を持っています。最後の「不親切」ですが、これこそが、今回のテーマである「素心」を解決するキーワードと考えるのです。

団塊世代も60代になり、孫を持つようになりましたが、老後の生活という点では、年金への不安もあり、孫への関心の表し方が、私たちの先輩たちとは違って来ます。「6つのポケット」と言われた時代があったのですが、「2つ」は給料が少なく、残り「4つ」は年金不安で孫への投資という訳にもなかなか行かないようになっています。

こういう背景から、私たち団塊世代の孫たちこそ「不親切」を身にしみ育て、「不足」と「不満」と合わせて成長への大きなエネルギーを溜めている、すなわち、成長の「素心」を形成していると思っています。次の日本を牽引するのは、この世代と思っています。これからが楽しみです。

【AMIニュースのバックログは<http://www.web-ami.com/siryo.h>になれます！】